

2014年8月
特別臨時号

発行日：2014年8月18日
発行者：永井昌史
住所：西東京市西原町1-5-13
電話：042-478-0056
e-mail：info@kodomoamigo.org

アミーゴ通信



大切にしたい言葉

代表理事 永井 昌史



会員総会も終了し、8年目を迎えたアミーゴは、船に譬えると決して大きくない船ですが、一生懸命に大海原の航海を続けています。アミーゴの今年度は、第二期中期ビジョンの2年目です。連携の強化と組織基盤の強化を柱として、受託した学童クラブと児童センターの運営と共に、活動を進めていきます。

さてアミーゴは、アミーゴを支援してくださる方々、アミーゴで働いている職員、そして役員、それぞれがそれぞれの想いでこの活動に参加することで成り立っています。そんなアミーゴの活動に関わるすべての人が活動するとき大切にしていただければと考えている言葉があります。

「つながる」「ささえあう」「ともにいきる」です。

私たち一人一人は不安や悩みを持っていて、またその力は微々たるものです。しかし、皆がつながって、ささえあっていくことで、不安や悩みを解消し、またできなかったことができるようになります。そして、命を大切にしていって前向きにともに生きていく、そんな活動を大切にしていきたいと思っています。簡単な言葉ですが、簡単だから子どもからおとなまで、皆で共有できるかなと思っています。私たちの目指す「すべての子どもが持つ権利を保障し、安全、安心に暮らせる社会の実現」のために、つながり、ささえあい、そしてともに生きていくではありませんか。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

* * * * *

会員総会開催の報告とお礼

6月22日(日)15時から西東京市民会館において、2014年度子どもアミーゴ西東京会員総会が開催されました。当日は晴天に恵まれ、ご来賓の方々や大勢の会員のみなさまにご出席いただきました。

今年度はアミーゴ組織体制を一新し「ブロック制」としました。ひばりが丘児童センターを1つのブロックとし、学童クラブの運営は2つに分けました。ひばりが丘第1学童・第2学童クラブ、及び谷戸学童クラブを1つのブロック「ひばりが丘ブロック」とし、もう一つのブロックは北原学童、向台・向台第2学童クラブの「田無ブロック」としました。各ブロックにはブロック長を、その上には統括ブロック長を配置しました。月に一度、各ブロック長及び統括ブロック長と事務局長が出席する「運営会議」を設置。事業運営全般の管理、運営の責任を、初めて職員も一緒に持つことになりました。

また、アミーゴ創立当初から理事を務めた方々の退任と、新たに就任していただいた理事の方々の挨拶をいただきました。また、新たに職員も仲



▲2014年度総会の様子

間入りと、子どもアミーゴ西東京は、理事も評議員も、スタッフも組織体制も、心機一転し新しいアミーゴのスタートとなりました。

総会後の懇親会にもたくさんの会員の方々にお参加いただき、楽しい懇談の場を持つことが出来ました。

アミーゴ創立8年目。再来年には10周年となり、一つの大きな節目を迎えます。これからも、ますますの皆様からのご支援・ご鞭撻を宜しくお願い致します。

この場をお借りいたしまして、会員の皆様に、深く御礼申し上げます。

[事務局長：小松 まゆみ]

新任理事のご紹介

西口 徹

アミーゴには、西東京市市民協働推進センターゆめこらぼのセンター長を務めていた頃からいろいろとお世話になってきました。縁あって、2年前に評議員の一人として皆様の仲間に加えていただき、そしてこのたび理事に就任して、その責任の重さを痛感しています。



7月上旬に田無庁舎で開かれた「子ども・子育て支援制度市民説明会」に出席しましたが、イス席を急遽増設するほどの数多くの来場者があり、子育てを巡る市民の高い関心と期待が示されています。それだけに、学童クラブと児童館の運営をベースにしつつ、子どもを中心とする支え合いのまちづくり事業に取り組むアミーゴの活動は、ますます重要な役割を担っているかと思えます。

このような期待に添えるように、微力ですが精一杯がんばっていきたくと存じますので、なにとぞよろしくお願い致します。

なお、趣味は読書とウォーキングで、東海道、日光街道、奥州街道、甲州街道は踏破済で、中山道を歩き始めています。これまで日本橋→大宮→熊谷→高崎へ。今回は、高崎から碓氷峠越えて軽井沢を目指します。同行者募集中。(狛江市在住・日本NPOセンター勤務)

安藤 耕司

このたびは、子どもアミーゴ西東京のお仲間に入れていただきありがとうございます。

私のアミーゴとの出会いは、ひばりが丘児童センター受託の時でした。児童館運営に関する事で何かご協力出来たらとお手伝いを始めたのですが、アミーゴの学童保育や子どもたちへのまなざし、遊びについての考え方、地域との関わり方にたくさんの示唆を受けました。アミーゴが進めてきたことそのものが地域における「児童館事業」そのものだったと思っています。

現在、学童保育や児童館を含む「子どもたちの放課後」を取り巻く状況が大きく変化しようとしています。多くの自治体で「児童館」「学童保育」はその存在価値そのものが問われる状況になっています。施策としての児童館事業が必要なのか？ 他の方でいいのではないのか？ 遊びはそんなに大切なのか？ 専門的な指導員が必要なのか？

今、アミーゴを進めていくことそのものが、放課後の子どもたちにとって何が必要かを世の中に訴えていくものになると思っています。そのために、少しでも力を尽くせたらと思っています。よろしく願いいたします。



星 ゆかり

この度、理事をさせて頂く事になりました星と申します。私が、学童連協に関わり始めたのは10年前。その頃小2だった娘は18歳になりました。その後、連協で先輩父母だった方々がアミーゴを立ち上げ、自分も評議員をやらせて頂きながら、アミーゴという団体を支える一人一人の熱い思いを感じてきました。

私は、長年保育士をやってきました。その中で子どもは親だけでは育てられない、色々な関わりの中で育つ、育てる事の大切さを実感しています。アミーゴは、0歳～18歳という幅の広い子ども達に向けて活動しています。その中から学んだり考えさせられる事はたくさんあり、反対に課題や問題点もあると思います。色々な話をたくさんして知恵を出し合いながら、アミーゴが地域の核となるよう、子どもたちが笑顔で過ごせるように、私もアミーゴを作っていく一人になればな、と思います(^^) どうぞ宜しくお願いします。



編集部より
ごあいさつ

さて、これまで編集をされてきた菊池宇光さんより引き継ぎ、今月より「アミーゴ通信」の編集を任されることになりました。会員の皆さんや地域の皆さんとアミーゴの活動をつなぐ大事な冊子なので、軽やかに楽しく、時にシャープな気持ちで紙面作りをしていければ、と思っています。ところで、近頃ひとりで何かやることを「ぼっち〇〇」と言ったりするようですが、その言い方を借りれば、いまのところ「ぼっち編集部」です。それはそれで気楽で良いですが、一緒に「アミーゴ通信」を作っていく仲間も募集していきたいので、どうぞよろしくお願い致します！ [加藤 泰]